

# 研究成果情報

令和5年度

10月中旬～11月どりが可能なカリフラワー品種「豊月」(とよづき)の定植時期及び特徴		
[要約] 「豊月」は、8月中旬～9月上旬の定植で、 <u>10月中旬～11月に収穫</u> でき、異常花らいが少なく <u>高品質</u> である。		
新潟県農業総合研究所中山間地農業技術センター	連絡先	TEL 0258-89-2330 FAX 0258-89-4315

## [背景・ねらい]

小千谷市を中心とした長岡地域や魚沼地域の夏まきカリフラワー産地では、9月から11月まで品種を組み合わせて連続出荷が行われているが、10月下旬～11月初旬の収穫に使用していた品種「はくすい」が販売中止となり、代替品種が求められている。そこで、これに替わる有望品種を選定する。

## [内容]

- 1 「豊月」の定植時期は8月中旬から9月上旬までで、10月中旬から11月に収穫し、A品率はおおむね70%以上を期待できる。同じ作型の主要品種「雪まつり」と比べて収穫適期がやや遅い(図1、表)。
- 2 花らいは豊円で厚みがある(図2)。花らいの肥大が進むと軽微な隙間が生じやすくなるので、適期で収穫する。収穫適期における花らい障害の発生は「雪まつり」より少ない(表)。
- 3 花らいの包葉性は強いが、花らい肥大後半には折葉作業を行う(図2)。
- 4 外葉は横幅がやや広いが、倒伏はしにくい(図2)。
- 5 花らい周辺の葉柄は太く、横に張りやすいので、調整・梱包にはやや時間がかかる(図2)。

## [導入効果]

産地の出荷計画に寄与し、連続出荷を可能にする。

## [導入対象]

準高冷地を除く魚沼地域、長岡地域の秋どりカリフラワー生産者

## [留意点]

中山間地農業技術センターほ場(標高128m)での結果である。

[具体的データ]

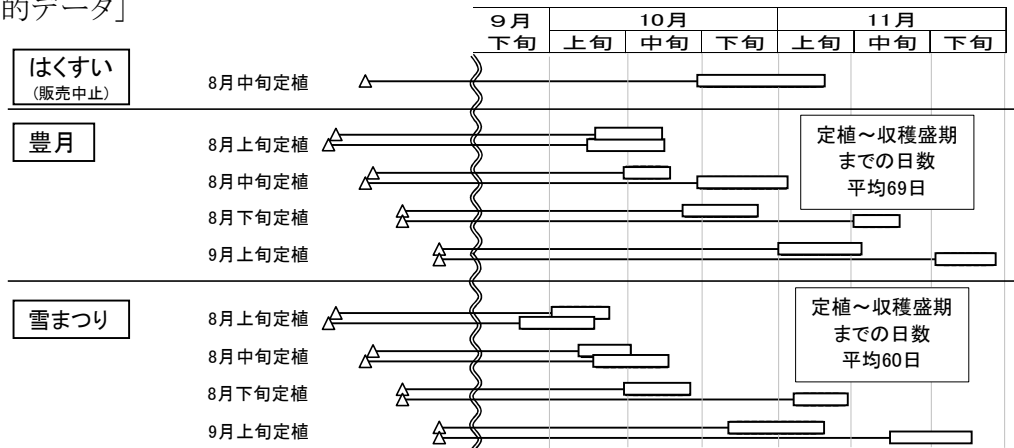


図1 各定植日における収穫時期

注1 同定植日の上段は令和3年度、下段は令和4年度。

注2 △は定植、□は収穫を示す。

表 収穫時の生育及び花らい品質

品種	定植日 (月/日)	収穫期間		収穫時生育			調整 花らい 重 (g/株)	A品率 (%)	花らい障害発生株率(%)					
		令和3年 (月/日)	令和4年 (月/日)	最大 葉長 (cm)	最大 葉幅 (cm)	展開 葉数 (枚)			フィ ジー	ライ シー	花ら い隙 間	花茎 空洞	アン トシ アン	そ の 他
豊月	8/4,5	10/7~14	10/6~14	55	25	30	851	40	48	0	42	0	0	3
	8/15,16	10/11~15	10/21~31	60	28	30	887	78	10	0	18	0	0	0
	8/25	10/19~27	11/11~15	63	28	26	901	80	7	2	18	2	0	2
	9/5	11/1~10	11/22~28	62	29	24	866	98	0	2	2	0	0	0
雪まつり	8/4,5	10/1~7	9/27~10/5	64	27	24	821	68	13	2	15	2	5	8
	8/15,16	10/5~11	10/7~15	57	27	25	814	69	0	0	9	17	2	5
	8/25	10/11~18	11/3~8	63	29	25	832	58	0	18	5	22	0	5
	9/5	10/25~11/5	11/16~25	61	29	22	780	17	0	45	10	23	3	7

注1 定植日は令和3年:8/5,8/16、令和4年:8/4,8/15。注2 各項目の数値は令和3年及び令和4年の平均値である。

注3 A品から格落ちとなる花らい障害は、重複して発生する場合もあるため、A品率と障害発生株率を合計した値は100以上となる。

注4 育苗には128穴セルトレイを使用。育苗日数30~31日。施肥量(kg/10a) N:P:K=19.8:15.0:18.0

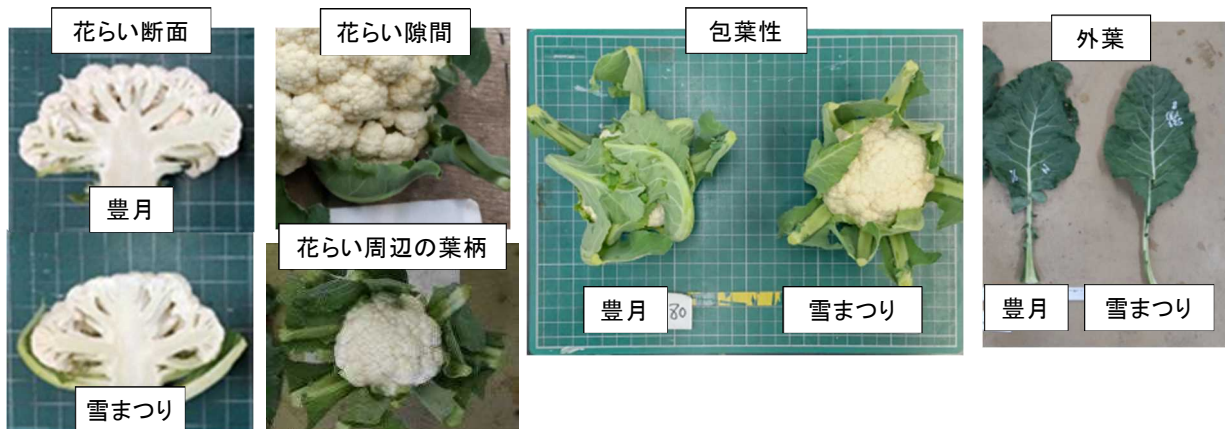


図2 花らい及び外葉の形状

[その他]

研究課題名:1 中山間地農業の活性化に向けた多様な地域特産品目の生産技術の確立

2 中山間地地域農業の活性化に向けた地域資源活用技術の確立

予算区分:県単経常

研究期間:1 令和2年度~令和3年度

2 令和4年度

発表論文等:なし